



第209號 (第 18 卷)

(昭和13年) 9 月 號

哀 悼

新城新藏博士長逝せらる

上海自然科學研究所長、京大名譽教授新城新藏博士は、南京へ研究出張中、病魔に冒され、去る8月1日午前5時永眠せらる。享年66。

博士は本邦天文學界の元老であり、殊に東洋天文學を開發せられた權威者として、又京都帝國大學に宇宙物理學教室を創設されて、數多の識學を産み、嘗ては本邦各地の重力測定にも奔走せらるなど、學界への貢獻と業績は數ふるに暇がない。

又、博士は昭和4年京大總長に就任され、退いて後は老軀を捧げて昭和10年月、上海に渡つて、自然科學研究所長として新興支那の科學の開發と研究に努力され、折しも戦火の開かるゝや、奮然銃火のたゞ中に踏み止まり、部下を勵まして、偉大なる科學者としての重責を遂行せられて居た。

今後支那文化の開發には、博士の努力に期待するもの益々多くならんとする秋、遽かに博士を失ふことは、邦家のため一大損失である。

なほ博士は去る7月下旬、暑熱を冒して南京中央研究院に出張し、學術研究を視察中、不幸病を得て遂に殉職せられたものである。

博士の數多の著述は中にも有名な「東洋天文學史研究」を始め、「宇宙大觀」や「こよみと天文」などは一般にも周知であり、又大衆に向つては常に迷信打破を唱導せられた。

日常、童顏をたゞへた博士の溫容に接する者は、誰れしも、その抱擁力の大到は魅せられ、威嚴のある人格を慕ふたものである。今や内外の信望を集めて功成るの時、急逝を見るときは、誠に痛惜に堪えない。

茲に、星を友とする會員諸氏と共に、博士の偉業を偲びつゝ、此處に謹んで深く哀悼の意を表する次第である。

昭和 13 年 8 月

東 亞 天 文 協 會